

北海道浮魚ニュース

令和8(2026)年度4号

2026年6月12日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎道東太平洋イカ類北上期資源調査結果

調査船・北辰丸により実施したスルメイカ資源調査の結果をお知らせします。

漁獲調査でスルメイカの漁獲はみられなかった

調査期間：2026年6月1日～3日

調査海域：道東太平洋（北緯41度線上の7調査点）

調査船：北辰丸（釧路水産試験場所属）、イカ釣機5台装備

調査方法：イカ釣機による夜間漁獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温環境（図1）

図1に各調査点でのスルメイカのCPUE（2連式いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数）と水温（表層・50m及び100m）を示しました。海洋環境調査を実施した5調査点の表面水温は7.5～13.5℃（昨年4調査点10.3～14.3℃）、50m深水温は2.9～10.5℃（昨年5.3～12.1℃）、100m深水温は2.4～9.3℃（昨年3.3～7.9℃）で、全体的に前年の同じ水深の水温よりも低い傾向を示しました。St.5とSt.7は水深100mで3℃以下の非常に低い値となり、親潮の影響下にありました。

なお、道総研水産研究本部では北海道周辺海域で2ヶ月ごとに3隻の調査船を用いた定期海洋観測を行い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下のURLで公開していますので、そちらも参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou.html>

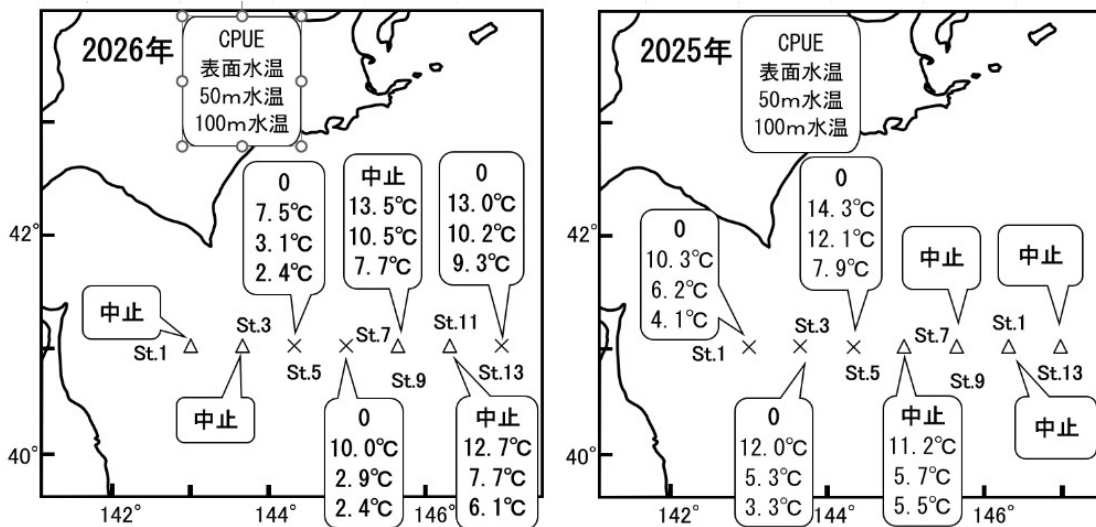


図1 各漁獲調査点でのスルメイカの漁獲調査結果と表面・50m・100m深水温（左：2026年、右：2025年）。●は漁獲あり。×は漁獲なし。△は漁獲調査中止

2. 分布密度（図1～2、表1）

各漁獲調査のCPUEを基準としてスルメイカの分布密度を調べました。調査点7点のうち3点で漁獲調査を実施しましたが、3点すべてで漁獲がみられず（図1）、全調査点の平均CPUEは2018年、2025年に続き3回目の0となりました（図2）。漁獲調査中に目視でスルメイカの群を探索したものの確認できず、調査海域におけるスルメイカの来遊は低調であったと考えられます。

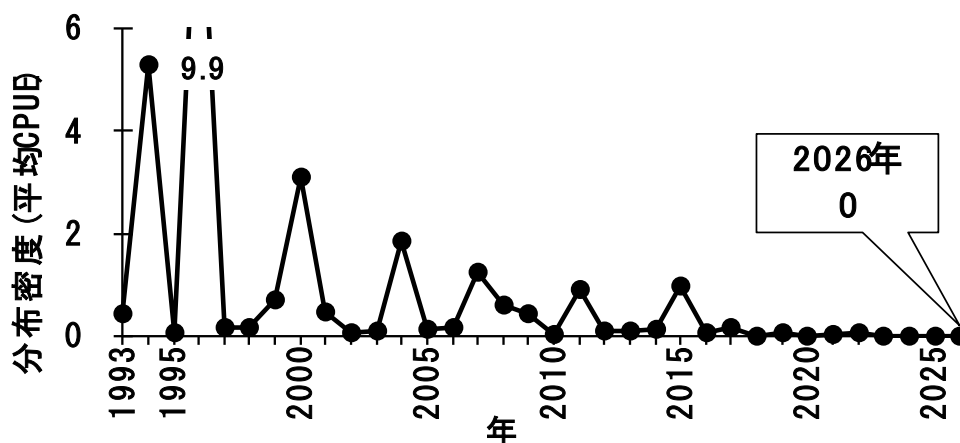


図2 イカ類北上期調査でのスルメイカの分布密度（平均CPUE）の経年変化

表1 2010～2026年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長組成		調査点数
			範囲(cm)	モード(cm)	
2010年 6/7～14	8	0.03	13-16	15	7
2011年 6/7～14	268	0.92	6-19	16	7
2012年 6/9～16	29	0.10	6-11	10	7
2013年 6/3～10	15	0.10	5-16	16	7
2014年 6/2～9	20	0.11	13-18	15	7
2015年 6/4～12	159	0.97	13-20	16	7
2016年 6/7～13	12	0.08	14-18	15-17	6
2017年 6/7～15	24	0.16	11-17	15	6
2018年 6/5～11	0	0.00	-	-	5
2019年 6/5～11	4	0.05	10-11	10,11	5
2020年 6/4～11	1	0.01	11	11	7
2021年 6/2～10	2	0.02	16, 24	16, 24	5
2022年 6/2～6	5	0.07	8-15	8-15	3
2023年 5/31～6/9	1	0.01	12	12	5
2024年 6/2～5	1	0.01	14	14	4
2025年 5/28～31	0	0.00	-	-	3
2026年 6/1～6/3	0	0.00	-	-	3

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

お問い合わせ先：釧路水産試験場調査研究部、 TEL:0154-23-6222
FAX:0154-23-6225